1995年11月13日発行　第7号

東京日本語ボランティア・ネットワーク

日本語 NETWORK NEWS

<第7号>

〒162　東京都新宿区神楽河岸1－1　東京ボランティア・センター気付　TEL03-3235-1171

サマーワークショップ、にぎやかに開催！

8月26日（土）27日（日）の2日間にわたり国立オリンピック記念青少年センターで、TNVNとしては初めての一泊二日のサマーワークショップが開催されました。今回は、異文化接触観察ゲーム、分科会、懇親会、パネルディスカッション、スポーツ大会と多彩な内容で、それぞれ多くの参加者でにぎわいました。当日は厳しい残暑の最中とあって、参加者もスタッフも汗をかいての二日間となりましたが、今回の経験を今後の企画に生かしてゆきたいと思います。

8月26日（土）午前 異文化接触観察ゲーム

国立国語研究所の柳沢好昭氏の指導で、以下のような異文化接触に関する分析と理解のためのゲーム・討論が行われました。実際に参加者の前でゲームを行なった人も、それを観察した人も、あらためて異文化について考え直すよいきっかけとなりました。



◇参加者のなかの数人が自己紹介を繰り返す様子を観察する『自己紹介ゲーム』

◆TVドラマのビデオを見て、グループ毎に日本人のコミュニケーションの特徴を討論

◇緊張度の高い場面における反応力・適応力のチェックをする『ストレス・テスト』

◆異なる文化背景をもつグループを設定し、特徴的性質をもとにコミュニケーションゲームを行ない、その特徴を推理する『異文化疑似体験』（担当／藤橋　帥子）

8月26日（土）午後 分科会Ⅰ 日本語の教え方Q＆A

この分科会では、参加者20名（ほかに傍聴者10名程度）で14団体からの顔ぶれがそろい、各自から出された問題点を参加者みんなで考え、答を見つけるという形をとりました。まず、各自の疑問や問題点を書き出してもらい、擬声語・漢字・助詞・動詞の効果的な教え方、教材について、定着しない学習者の教え方など、多くでたものから話し合いました。それぞれの体験からの意見が活発にとびかい、また専門的な研究をしている参加者もいて解決への大きな力になってくれました。「正解」はだれにも出せませんが、話し合いの中から各々「より良いやり方」という答えを見つけられたと思います。

（担当／林川　玲子）

8月26日（土）午後 分科会Ⅱ 日本語教材の使い方

TNVNの賛助会員でもある教材会社、アルク・スリーエーネットワーク・凡人社のご協力のもと、3社合同で事前に打ち合わせをしていただいての分科会でした。当日は、3社の教材を会場後部に陳列し、教科書の解説をしていただきました。現在、日本語を学ぶ学習者の大半はアジアの人たちではないかと思いますが、今回の教材の解説は英語圏の学習者向けの教材に時間を費やし過ぎたかなと感じ、担当としてはその点を反省しています。また、参加者からは教材を手にとる時間が短かったというご意見もあり、今後の参考にしたいと思っています。（担当／吉田　良子）

8月26日（土）夜 懇親会

今回のサマーワークショップは宿泊をはさんで、TNVN発足以来、一番長いイベントでした。もりだくさんの内容で、緊張しつつも飽きることなくやれたと思い、スタッフが力を合わせればこんなにやれるんだなあと実感。みなさん、ご苦労様！

懇親会には大阪大学の山田泉先生、KDDの勝部日出男氏・秋山由夫氏、東京ボランティアセンターの池田明彦氏などをゲストとして迎え、たくさんの出席者で盛大に開催することができました。私個人のことでは、この懇親会と職場の女性の結婚披露宴がバッティング。どちらもパスすることはできず、難しい選択を迫られました。結局は新婦に失礼にならぬよう根回しし、乾杯が終わったところで堂々と退席。懇親会にはなんとか滑り込めました。アーよかった。

（担当／清水　正敏）

8月27日（日）午前 講演

明治大学教授のジム・バワーズ先生のお話でぜひ聞きたかったことは、日本語をどのように習得されたかでした。先生の日本語はとてもお上手で分かりやすいからです。お話をうかがうと熱心に努力されたことがよくわかり、司会者の立場を忘れるほどお話に引きつけられてしまいました。日本語ボランティアとして活動している私たちにとってとても有益なお話で、日本語を指導する上でたいへん勉強になり、早速教室活動に役立てています。教室での言葉や文法の指導だけでは学習者は飽きてしまいます。私たちの活動で大切なことは、やはり心の触れ合いだと感じました。

（担当／矢加部百合枝）

8月27日（日）午前 パネルディスカッション

国際化の時代、私たちは日本に外国人を迎え入れるのではなく、同じ地球人として共に暮らすという時代へ向かっているのだと思います。この際、一度立ち止まって、日本語ボランティアとしての理想の姿を考えてみるのもよいのではないか。そんな思いから、今回このようなパネルディスカッションを開催。パネリストとして、日本語学校の先生、日本語学習者、教えている人、両者を仲介するコーディネーター等、さまざまな立場の方々にご参加いただきました。さすがにみなさんのお話は熱っぽく、示唆に富んだもので、また会場からの発言も活発でボランティアの方々の熱意を強く感じました。　（担当／渡辺　泰子）

8月27日（日）午後 スポーツ大会

夏休み最後の日曜日に、「スポーツを通じて国際交流をしよう」という試みで、このスポーツ大会が開催されました。当日の参加者は約50名。バレーボール、ソフトテニス、卓球を準備して、それぞれが好きな種目に参加するという形をとりました。夏休み中という時期が悪かったためか、はたまた宣伝が行き届かなかったためか、当初の予定ほどの参加者は集まりませんでしたが、当日の体育館はそんなことには関係なく熱気でいっぱい。マイラケットを持参する参加者までいるほどでした。最後には全員で綱引きをして、勝ち負けにこだわらず、さわやかな汗を流した一日でした。

（担当／橋本佳子）



〈サマーワークショップのアンケートから〉

◆このようにみんなで問題を持ち寄って、知恵を集めて実施するエネルギーは、たいへん貴重だと感じました。

◆スポーツイベントはとても楽しかったので、またぜひ開催してほしい。今度はサッカーなどもやりたいと思います。

◆分科会や講演などたいへん有意義でしたが、あまり時間がなかったので、再度ゆっくりお話をお聞きできればと思いました。

目で見るデータ

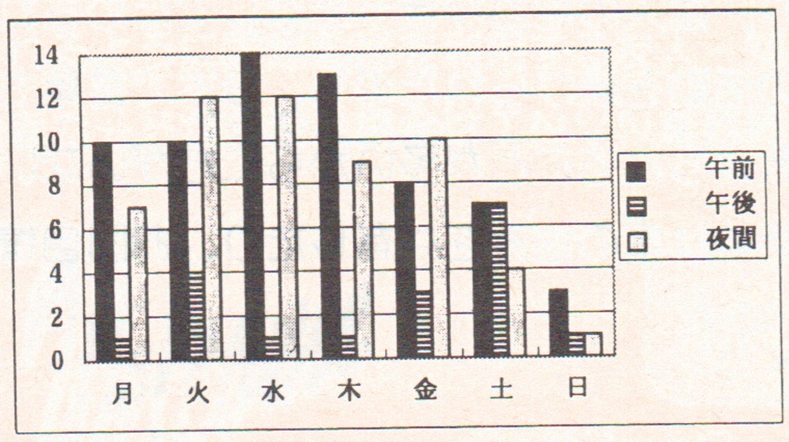
ボランティア日本語教室の現状　１９９５年

『東京ボランティア日本語教室ガイド』作成のために昨年度に実施したアンケートを、本年度も実施しました。そのデータを集計して、日本語ボランティア活動の実態をまとめてみました。グループでの活動のご参考にしていただければ幸いです。

アンケート集計　７０団体（７５団体中　９３%）１９９５年9月１５日現在

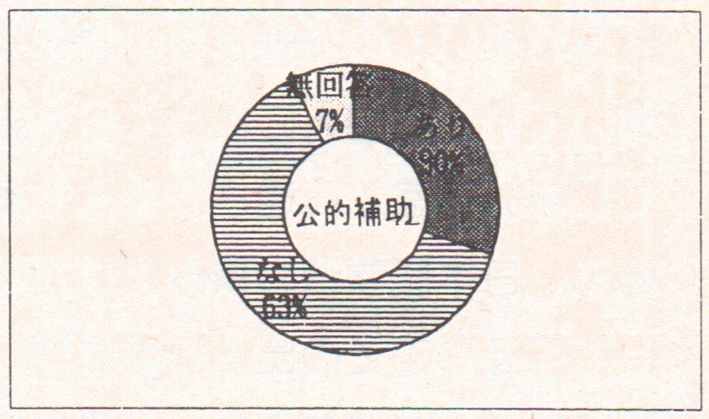
開催曜日別教室数

	午前	午後	夜間	計
月	10	1	7	18
火	10	4	12	26
水	14	1	12	27
木	13	1	9	23
金	8	3	10	21
土	7	7	4	18
日	3	1	1	5
随時				2
計	65	18	55	140



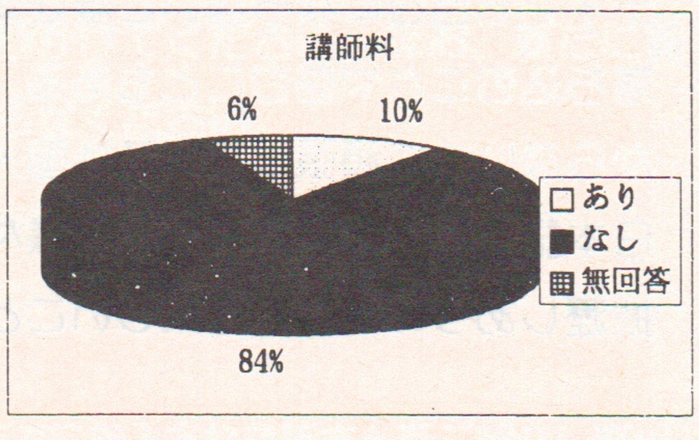
公的補助

あり	21
なし	44
無回答	5



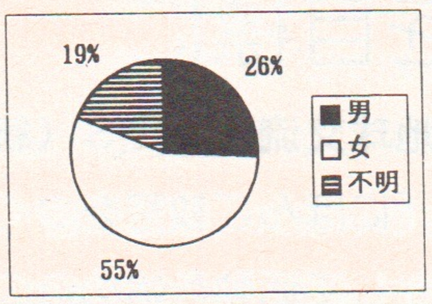
ボランティア講師料

あり	7
なし	59
無回答	4



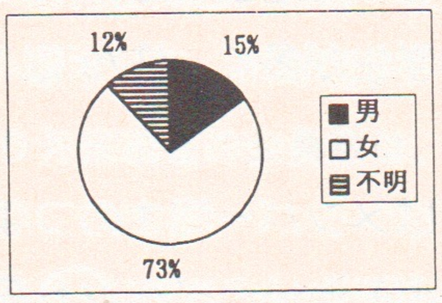
学習者数

男	673
女	1440
不明	487
計	2600



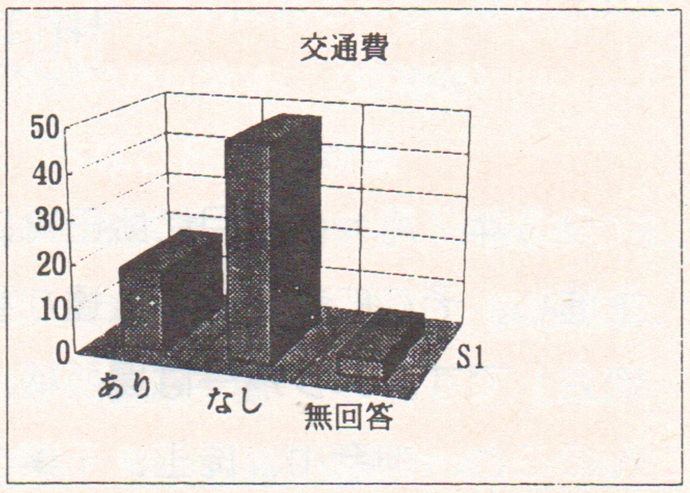
ボランティア数

男	296
女	1422
不明	227
計	1945



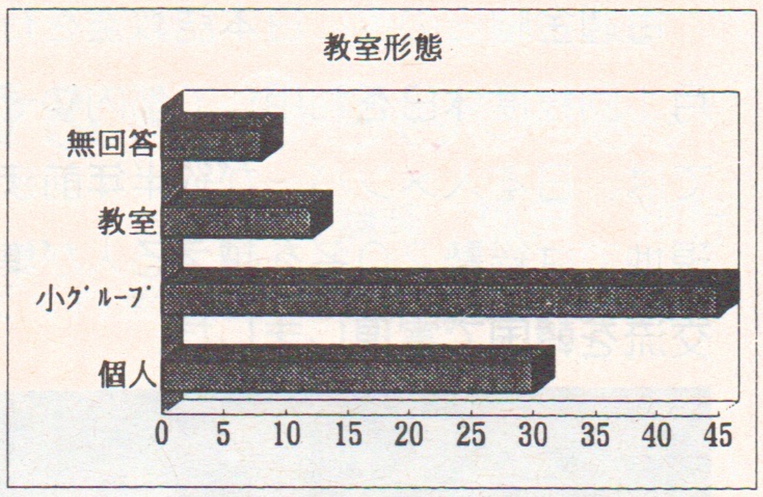
ボランティア交通費

あり	18
なし	48
無回答	4



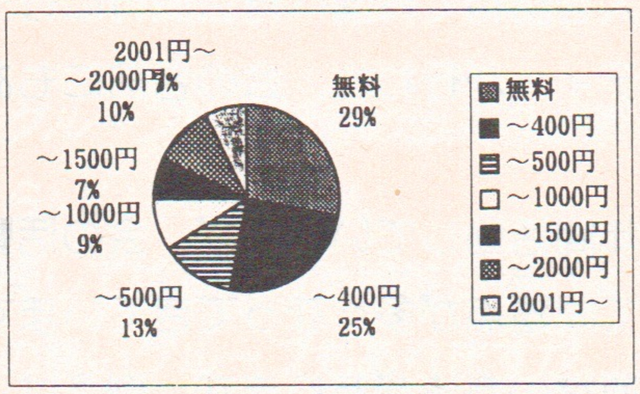
教室形態

個人	30
ｸﾞﾙｰﾌﾟ	45
教室	12
無回答	8
（複数回答あり）	



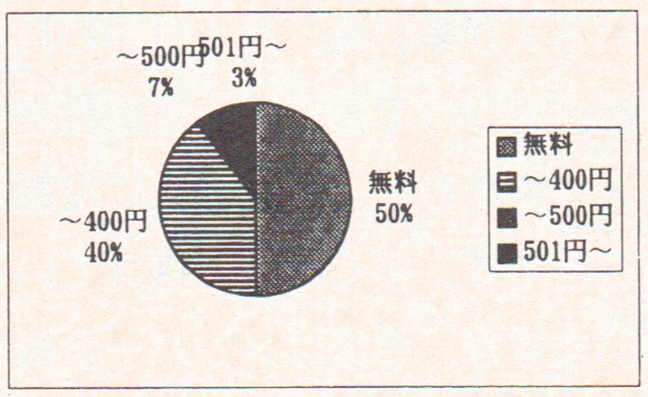
学習者会費
１ヶ月

無料	19
～400円	17
～500円	9
～1000円	6
～1500円	5
～2000円	7
2001円～	5



ボランティア会費
１ヶ月

無料	34
～400円	27
～500円	5
501円～	2



TNVNでは「東京ボランティア日本語教室ガイド」改訂版の発行のために助成金の申請等の準備をすすめてきましたが、申請が認められなかったため、今年度は発行できないことになりました。今後、準備が整い次第、発行の予定です。

お詫びして訂正いたします。

NICE TO MEET YOU!

会員団体のプロフィール

教室の中はグローバル

足立区日本語ボランティア「ふれあい」（足立区）　永井　操子

毎週月曜日の夜、足立区女性センターの教室には仕事を終えた様々な外国人が笑顔で入ってくる。ここ「ふれあい」に日本語を学習にくる外国人は、タイ、パキスタン、イラン、ナイジェリア、セネガル、ブラジル等々、アジアを中心に世界中からやってきた人々だ。

「ふれあい」の活動は夜の開催なのでボランティアも外国人も働いている人が多い。厳しい条件のもとで働いている外国人にとって日本語学習を継続することは並大抵ではない。良い条件の仕事があれば移動してしまい教室から遠ざかる人も多い。ボランティアも教材を用意して待っていても空振りに終わることもある。日本語学習の積み上げがなかなかできないのが大きな悩みでもある。ほとんどが口コミか紹介で入ってくるのでその出入りははげしい。在住歴の長い人、短い人、条件も日本語能力もまちまちだ。ボランティアも当日にならないと誰を受け持つか分からないこともあり、個人の能力がまったなしでためされる。落ち込むことや悩むこともある。しかし、「ふれあい」が７年の活動を続けられたのも、日本で言葉も分からないのに頑張っている外国人の明るさやバイタリティーに教えられることが多いからにちがいない。日本語学習をしながら世界の様々な国からやってきた彼らと生活や仕事の悩みを共有したり、お国自慢を披瀝しあうのはとても楽しいことだ。

地球規模での交流を目標に

日本語地球交流会ＪＥＳ（新宿区）　酒勾　康裕

９３年７月～１０月に飯田橋にある東京都青少年センターが「にほんご教室をつくろう」という事業を主催し、そこに参加した人達が事業終了後に自主的なグループとして活動を始めたのが、「日本語地球交流会」です。メンバーは場所柄、日本人、学習者共に社会人や学生が多く、住んでいる所も都内はもちろんのこと、神奈川、埼玉、千葉と、様々です。

毎週金曜日の夜に日本語教室を行っていますが、それだけではメンバー同士のつながりが少ないため、月１回程度休日を利用して都内やその近郊を観光・見学（＝遊ぶ）というイベントを行っています。最近では、日本人メンバーが約半年前まで日本に滞在していた人を訪ねて韓国へ再会旅行に行ってきました。現地では総勢２０名を越える人が集まり、盛大に再会パーティーが行われ、会の名前にもある通り、地球交流を韓国で実現しました。



再会ﾊﾟｰﾃｨｰ・韓国民族村の前での記念撮影

約２年間活動していますが、会の活動が軌道にのるにつれて問題点が多くなってきています。そのうちの１つに運営の方法があります。例えば、平日に仕事をもっている人が多い為、月１回行われる場所とりには何とか都合をつけて出たり、会場設営には比較的早くこれる人が来たりと、特定の人に役割が集中しているということです。多くの会で抱えている共通の問題だとは思いますが、今後はメンバー全員がそれぞれの役割を持って運営を進めていこうと改革中です。

「なかま」と「かたつむり」

国際交流　日本語のなかま／日本語グループ　かたつむり（北区）　木村　浩

両グループとも北区立中央公園文化センターの教室を借り、「なかま」は毎週火曜日の夜、「かたつむり」は毎週水曜日の午前に活動を行っている。

「なかま」は北区主催「日本語入門教室」の修了生を対象に1992年9月に自主グループとして発足した。当初、入門レベルの人に「日本語初歩」、初級レベルの人に「待遇表現」を教科書として使用し、日本人ボランティアが指導する形式であった。その後、新しく参加する人が増えるに従い、受講者のレベルやニーズも多様化し、その希望も取り入れて、教科書中心とフリートーキング中心のグループに分かれ、さらにそれぞれが初級、中級に分かれる形態になり現在に至っている。夜間に活動しているので、日本人ボランティア、外国人学習者とも会社員など昼間の職業を持った人、学生などが多い。３年間の参加人員は、やめた人も含めて外国人１２１名（国籍１７ヶ国）、日本人５３名に達する。



インド人を先生にカレー料理の講習会

「かたつむり」は1993年１月発足以来、一貫して日本語教室の形式で授業を行っている。最初は「日本語初歩」を、これを終わってから「日本語中級Ｉ」を教科書に使っている。午前中の活動のため主婦が多く、３年近く続けて参加している人もあり、子連れで来る人もある。教科書の学習だけでなく、日本の年中行事、季節の話題、最近では俳句、短歌の紹介もとり入れている。発足以降の累積参加者は外国人78名（国籍23ヶ国）、日本人45名である。

楽しく日本語を学びましょう

日野国際友好クラブ（日野市）妹尾　喜和

日野国際友好クラブは、92年10月、外国人のための日本語教室を中心に草の根の国際交流をひろげていこうということで発足しました。クラブでは、教室の安定確保、外国人への広報、行政の責務といった点で、行政の協力が不可欠と考え、当初、クラブと公民館の共催、95年からは公民館の委託事業という形で教室をすすめてきました。教室の運営、ボランティアの募集、育成はクラブで担当しています。

教室は現在水曜日の午前・夜間、金曜日の夜間の３コースで、対象は初級、各レベル別の１～４の小グループ編成としています。午前のコースは国際結婚した主婦など平均して10数人が受講し、夜間コースは勤労者中心で30数人が受講しています。受講者はペルーなどスペイン語圏、中国語圏、フィリピンなどの英語圏で、直接法で行なっています。生徒募集は４月で受講期間は１年ですが、出産、就職、残業、引越など、長期に安定して出席できる受講者は多くなく、受講者の入れ代わりが多いのが特徴です。

受講者は外国料理の紹介や語学教室、また小中学校に招かれて、異文化交流するなど、積極的な役割も担っています。クラブでは交流パーティー、スポーツ、お国紹介などの交流や、外国人にもくらしやすい町づくりのため行政へ提案なども行なっています。

▽会報；「スモールワールド」

▼クラブ会費；月300円

▽受講費；無料

▼会長；中堀和男

▽連絡先；久保田　0425(94)1140



ZOOM IN

日本語ボランティアレポート

EMPC在日外国人生活情報誌連合会

東京都新宿区坂町24-5　ストーク四谷311

情報誌というメディアを通じて 在日外国人の生活をサポート

現在、日本に生活している外国人は約160万人と言われています。それぞれの外国人が異なる文化をバックグラウンドに持ちながら、日本の文化のなかで生活しているわけです。他国で生活していれば、なにかと困ること、不自由することも多いのは当然で、そんなときになんと言ってもありがたいのは自国語による情報です。日本にはさまざまな外国語のメディアがあり、それぞれに内容もかなり充実しています。そんな在日外国人のための情報誌によるネットワークがあるということで、さっそくお伺いして活動についてお話をお聞きしてみました。

情報誌のネットワークで、より大きな力を発揮

今回お話をうかがったのは、㈱クレッセントの斎藤英生さん。EMCPの発起人であり、イベント企画のお仕事のかたわら、現在もEMPC事務局として活躍されています。設立のきっかけは、斎藤さんがお仕事で国際交流にまつわるイベント企画を手がけられたこと。このイベントが開催された当時は、毎日のようにマスコミで外国人と日本人の摩擦が大きくとりあげられていた頃でした。そこで，まず、日本国内で発行されている外国人のための情報誌を調べたところ、そのバラエティのゆたかさや内容の充実度は予想以上のものでした。このことから、これらの情報誌の存在と活動意義を紹介することによって、より有効な活動ができるのではと思いつき、さまざまな情報誌にネットワークの結成を呼びかけたわけです。

このような経緯から、1994年11月には第1回の『在日外国人生活情報誌編集長シンポジウム』を開催。このときに参加した在日外国人のための生活情報誌9誌をメンバーとしてEMPC在日外国人生活情報誌連合会が発足しました。このEMPCの最大の目的は、日本の社会にそれぞれの情報誌の存在をアピールすることによって、各誌に共通する問題点を解決し、日本人と外国人の共存に貢献することです。EMPCのメンバーの多くは、大きな組織ではありません。そのため、数少ないスタッフで取材・編集・制作をこなさなければならないこと、雑誌の設置場所の確保や購読者の確保、運営をまかなう資金源となる広告の獲得など、共通の課題もたくさんあります。ネットワークを結成することで、このような問題の解決に少しでも役立つようにというのが、設立の狙いでした。

現在、メンバーである9誌の発行部数は1ヶ月に30～35万部。1誌が平均して2～3人に回読されていると言われています。この数字からも在日外国人からの支持の大きさがうかがえます。



被災外国人の救援にも、きめ細かな情報で貢献

ＥＭＰＣが発足した直後の今年１月には、阪神大震災が発生。このときに、これらの情報誌が担った役割はたいへん大きなものがありました。震災の直後に、阪神大震災外国人救援実行委員会を設けて、現地視察団を派遣し、在日外国人の被災実態を調査しました。そして、マスメディアでは伝えきれなかった小さな情報やメッセージを、現地に足を運んで直接収集してきたといいます。このような情報は早速、各国語の情報誌に掲載。情報誌を読んだ同胞からたくさんの支援が集まり、援助の輪が広がっていきました。

このことから、斎藤さんは在日外国人情報誌の役割を再認識。在日外国人にとって、これらのメディアは単なる生活情報誌としての役割をこえ、ライフラインと言えるものとなっていたのです。また同時に、母国のマスコミへの情報の発信源ともなっており、たとえば、ブラジルの新聞には『ＴＵＤＯ　ＢＥＮ』の記事がそのまま掲載されたそうです。

このような被災した在日外国人への支援は、その後も継続。この５月には阪神大震災で被災した外国人への義援金を集めることを目的に、池袋のサンシャイン文化会館においてフリーマーケットを開催しました。このイベントは国際デジタル通信㈱の支援を受け、世界各国からの出店はもとより、各国の伝統舞踊などの多彩なパフォーマンスも繰り広げられ、多くの参加者で賑わったそうです。

独自メディアによる発信で、将来の飛躍をめざす

今年の11月に設立１周年を迎えるＥＭＰＣは、11月21日には設立１周年を記念して、『第２回在日外国人生活情報誌編集長シンポジウム』を開催の予定です。今後の目標は、より完璧なネットワークを構成すること。

具体的に言うと、まずひとつの組織としてのＥＭＰＣを日本の社会に存在を認知してもらうこと。例えば、ＥＭＰＣのメンバーである在日外国人生活情報誌は外国人記者クラブなどのメンバーではないことから、思うように取材活動ができないこともあります。このＥＭＰＣの存在が社会に認知されれば、ＥＭＰＣのＩＤカードを発行したりして、このような状況が解消できるわけです。

また、現在は９誌がメンバーとして参加していますが、「今後はこのメンバー数をさらに拡大していきたい」と斎藤さん。とりあえずは、在日外国人の70パーセントまでＥＭＰＣのメディアによって浸透できればというのが目標です。さらに、将来的には、ＥＭＰＣ独自のメディアを持って発言していきたいということです。ＥＭＰＣ独自のメディアというのが、雑誌・新聞のような印刷媒体になるか、あるいはミニＦＭ局のネットワークやパソコンネットワークのようなものになるか、その形態については現在模索中だそうですが、そうなることによって日本での外国人に対するケアがより厚いものとなっていくことを期待しています。

【ＥＭＰＣに参加している情報誌】

留学生新聞	全３２ページ	日・中２カ国語表記	月２回発行　１部300円
新交流時報	全１６ページ	日・中２カ国語表記	月２回発行　１部300円
JOURNAL　TUDO　BEN	全２４ページ	ポルトガル語表記	週１回発行　１部280円
HIRAGANA　TIMES	全８０ページ	日・英２カ国語表記	月１回発行　１部350円
NEW　COM　スーマイ	全１２ページ	日・タイ２カ国語表記	月１回発行　１部250円
GIAO　LUU	全　８ページ	日・ベトナム２カ国語表記	月１回発行　１部200円
馬來西亜時報	全　８ページ	日・中・英３カ国語表記	月１回発行　１部100円
月刊アリラン	全８４ページ	ハングル表記	月１回発行　無　料
KAIBIGAN	全　４ページ	フィリピン語表記	月１回発行　無　料



阪神大震災チャリティのフリーマーケット

（写真提供／在日外国人生活情報誌連合会）

すべての人々に文字を 識字

「世界識字会議」に参加して

TNVN　事務局長　林川　玲子

今年は、ユネスコが提唱した「国際識字の１０年」の中間年に当たるため、９月５日から８日までの４日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで、ユネスコと日本ユネスコ協会連盟などの主催による「世界識字会議」が開かれた。海外から３４カ国、１０８NGOの約１５０人、国内から延べ約２００人が参加、これまでの識字活動を評価し、今後の効果的な活動を模索した。

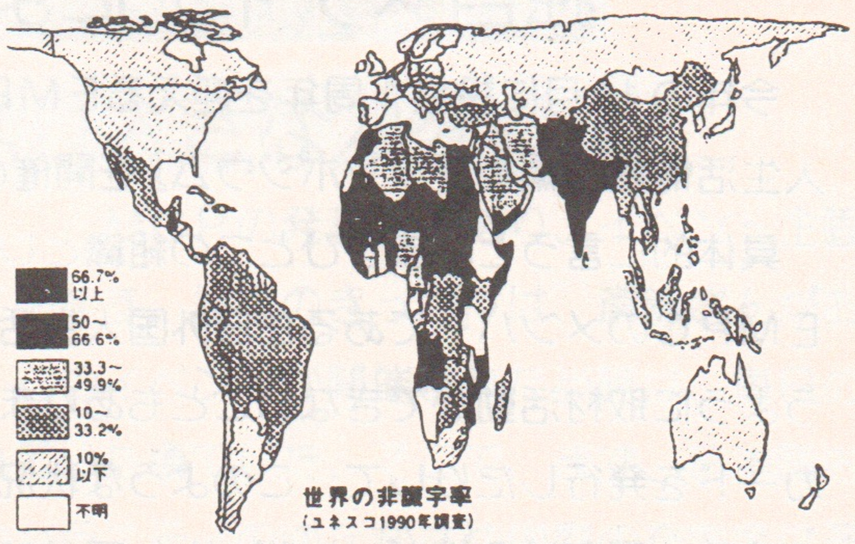
（読売新聞９月１８日付による）

世界には約１０億人も読み書きを学習する機会のない人々がいて、毎日の生活、特に仕事の場で不利な立場におかれているという。「こどもたちのために遊びをつかった教材がほしい」、「女性が学ぼうとすると、男性に乱暴される」、「識字問題の存在を社会に理解してもらう努力が必要」など、インド、ネパール、バングラディシュなど、アジアの国からの報告が目立ったが、「共に学び、生きる喜びをわかちあおう」をスローガンに真剣な意見交換が行われた。一方、超高識字率を誇る日本だが、実は在日韓国・朝鮮人など同じような立場におかれている人々がいる。そして、さらに中国帰国者、日系南米人、外国人配偶者など日本語のために弱者になっている人たちが増えている。識字率の高い日本だけにその不利さは極めて大きいものだろう。すでにそれらの人々を支援している団体もあるが、「日本語ボランティア」としてはきちんとした認識を持たなければならないと思う。

国際識字年の１０年と日本語教室

∽∽∽ユネスコ『学習権宣言』の意義と私たちの課題∽∽∽

アジアと交流する市民の会　横山　文夫



国際識字年の１０年も残すところあと５年余となった。推進組織として国際成人教育協会を事務局に「実行委員会」が結成され、「呼びかけ」が発表されているが、その基礎となっているのがユネスコの学習権宣言である。

この宣言は『学習権とは読み書きの権利であり、問い続け深く考える権利であり、想像し創造する権利であり、自分自身の世界を読み取り歴史を綴る権利であり、あらゆる教育の手立てを得る権利であり、個人および集団の力量を発達させる権利である。…学習権を理解することは、今日の人類にとって決定的に重要な諸問題を解決するために私たちがなしうる最善の貢献のひとつである』などがうたわれ、最後に、『…人類の将来は誰が決めるのか』を問いかけている。

学習権宣言は国際識字年の基礎となっているばかりか、外国人住民や私たち日本語ボランティアを含めた全ての人の学習の権利とその課題を提起している。特に外国人住民の学習権は日本で生活していく上で重要であり、日本語教室はその実践の場となっている。日本語教室が日本語学習だけの場でないことは明瞭で、外国人が「最初に出会う信頼の場」であり、そこには種々の相談も持ち込まれる。この対応の中で日本の現実を改めて実感したり、外国との相違や共通点を見いだすなど互いが理解し合うこともできる。こうして共に学習しつつより快適な生活を求め、共に歩める社会創造の場になっているのではなかろうか。そう考えると、国際識字年の１０年が私たち自身の問題であることが見えてくる。社会の国際化は必然的に進行し、外国人住民との共生抜きには成立し得ず、日本語教室の役割も益々重要になってくる。私たちは、内外人平等の原則を持つ種々の国際条約や国内法を具体的に活用していく力を付け、国際化の必然性と学習者の背景を深く掴み、日本の社会や生活のなかでの日本語学習を考えることが求められている。

（正会員／投稿）

☎ もしもし、○○さんはいらっしゃいますか？ ☎

……KDDが外国人のための『日本語の電話応対講習会』を開催……



日頃からサポートプログラムや交流会でのフリーコールサービスなどでTNVNへの支援を続けているKDD国際電信電話㈱では、10月4日（水）に外国人のための『日本語の電話応対講習会』を開催しました。この日は、新宿のKDDビル32階の見晴らしのよい教室に多数の在日外国人が集まって、なごやかな雰囲気のうちに日本語での電話応対を学習。講師として協力してくださったのは、KDDのOBであるボランティア日本語教師の方々でした。講習会に参加した外国人のみなさんからは*「正しい電話での応対がよくわかって自信がつきました」*、*「これから、電話をかけるときやかかってきた時にさっそく使ってみます」*と大好評。KDDでは今後もこのような外国人のための日本語講習会を開催していく予定ですので、興味のある学習者の方にはぜひご参加をおすすめください。

また、KDDによるTNVNサポートプログラムの賛同者もみなさまのご協力のおかげで順調に増加。同プログラムによる支援金はTNVNの活動に有効に活用させていただいています。今後もさらに多くの賛同が得られるように国際電話を利用する友人・知人や学習者などに、積極的に呼びかけてください。なお、新たに賛同者カードが必要な場合はTNVN事務局までハガキまたはFAXでお知らせください。

Welcome 新入会員のご紹介

日本語ネットワークニュース第6号では1995年7月までに加入された皆さんをご紹介しましたので、ここでは95年8月以降に加入された方々をご紹介いたします。（敬称略）

◆正会員　；所沢インターナショナルファミリー、としま日本語サークル、みなと日本語教室

◆協力会員；小川恵子、吉川正則、太田みゆき、石黒圭子、梅　望、塩路亮子、和唐美恵、豊田邦子、内田みつ子、髙谷弘美、志村日支三、板橋　正、吉村早苗、矢部光子、渡辺　満、廣庭朝子、橋本藤江、萩野信京、大西康子、坂本公男、川津信子、栗木満里子、安田弥生、長野ふき子、貝淵千穂

1995年10月末現在の会員数は、正会員76団体、協力会員117名、賛助会員7団体です。

☺😐☹☺😐☹☺ 日本語ボランティアQ&A ☺😐☹☺😐☹☺

日本大学講師　福田　知行

Q：*私たちのグループは学習者の出入りが激しく、なかなか定着してくれません。定着率を上げるには、どうしたらいいでしょうか。*

A：学習者に関してはかなり地域性が強いようです。もちろん同じ地域でも定着率のいいグループもあれば定着率の悪いグループもありますが、その理由を特定することは難しいと思います。引越をしたとか帰国したとか、疲れていたり病気になっているかもしれませんし、勉強が嫌になったりそのグループの学習方法に不満がある場合もあるでしょう。ボランティアとしては自分の教え方が悪かったのではないかと心配になりますが、問題は来なくなった理由をなぜ学習者本人に聞かないのかという点にあります。もちろん学習者が本当の理由を言ってくれないことも考えられますが、少なくともそれをしないでボランティア同士であれこれ憶測していても仕方がないように思えます。まずはお互いに率直に話し合うことから始めてはどうでしょう。

Network Information

日本語ボランティア相談と入門講座を開催中

この春から好評のうちに開催された日本語ボランティア入門講座の第２弾が１０月よりスタートしました。入門講座は、１１月は「日本語ボランティアの心がまえ」、１２月は「日本語学習者の現状について」をテーマに、それぞれ午後と夜間に開催。あわせて、日本語ボランティア相談窓口では、日本語教授法からグループ運営まで、幅広い分野のご相談に経験豊富なスタッフがお答えいたします。新たにメンバーになられた方にぜひお勧めください。

◆日時／

１１月２１日（火）午後１～２時（相談窓口）、午後２～４時（入門講座）

１１月２８日（火）午後５～６時（相談窓口）、午後６～８時（入門講座）

１２月１２日（火）午後１～２時（相談窓口）、午後２～４時（入門講座）

１２月１２日（火）午後５～６時（相談窓口）、午後６～８時（入門講座）

◆場所／東京都生涯学習情報センター

セミナー室

◆交通／ＪＲ／地下鉄、有楽町駅下車３分

◆参加費／入門講座は１回６００円

相談は無料

二つの日本語ボランティア講習会がスタート

この秋よりＴＮＶＮの主催による二つの日本語ボランティア講習会が開催されています。９月３０日（土）からは（財）日本船舶振興会の助成を受けて日本語ボランティア育成講習会が、１０月４日（水）からは（財）国際コミュニケーション基金の助成で日本語ボランティア基礎講習会がスタート。どちらの講習会も多くの受講者で盛況で、会場の熱気には圧倒されるほどです。なお、日本語ボランティア基礎講習会は９６年１月からも同様の内容で開催の予定ですので、定員オーバーのため今回受講いただけなかったみなさんはぜひこちらにご参加ください。

ＴＮＶＮ設立２周年記念講演会を開催

会員のみなさんのご協力のおかげで、ＴＮＶＮはこの１２月で設立２周年を迎えます。これを記念してＴＮＶＮでは講演会と正会員のみなさんの懇親会を開催することとなりました。暮れのなにかと忙しい時期ですが、ぜひご参加ください。

なお、詳細については各団体宛に後日招待状をお送りいたします。

◆日時／１２月１３日（水）　午後６時～

◆場所／新宿ＫＤＤビル　会議室

◆講師／水谷　修　先生（国立国語研究所所長）

`95 ぼらんてぃあ・めっせ・東京へご参加を

今年度も東京ボランティア・センターの主催による『ぼらんてぃあ・めっせ・東京』が下記のスケジュールで開催されます。今回は山手線でのキャンペーンなど、多彩な内容で開催されますので、どうぞご参加ください。

◆11 月 23 日（祝）山手線一周キャンペーン

山手線沿線各会場で

◆11 月 25 日（土）基調講演およびボランティア分科会

於；飯田橋セントラルプラザ

◆11 月 26 日（日）記念講演／李　基愛さん／

恵泉女学園大学講師／飯田橋セントラルプラザ

◆参加申し込み・問い合わせ／東京ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰめっせ係

TEL:03-3235-1171　FAX:03-3235-0050

ＴＮＶＮへの問い合わせ・申し込み等は下記まで郵便またはＦＡＸでお願いします。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

〒162　東京都新宿区神楽河岸１－１　東京ボランティア・センター気付　FAX；03-3235-0050

Bulletin Board

外国人法律相談を実施中

東京の三弁護士会と法律扶助協会東京支部では、外国人を対象とした法律相談を行なっています。相談は有料ですが、毎週木曜日には収入の少ない人を対象に無料相談を実施。相談には日本語のほかにも、英語、中国語で応じます。

また、この制度の録音テープによる案内を英語と中国語で行なっています。（☎03－3581－2302）

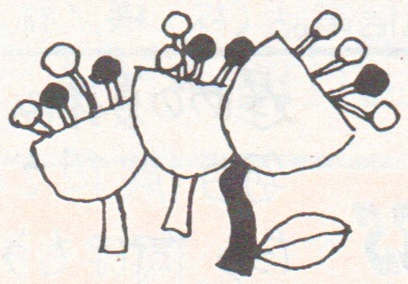
◆日時／毎週月曜日～金曜日　午後1～4時

◆場所／新弁護士会館（千代田区霞ヶ関）

◆相談料／原則として30分につき5000円（木曜日は無料）

◆申し込み／相談希望当日午後1～3時まで新弁護士会館1階で受付

もしくは日本語による電話予約（☎03－3581－1511）



日本語スピーチコンテスト参加者募集

96年2月に開催される横浜市青葉区の『青葉スピーチコンテスト』では、コンテストで日本語によるスピーチをする出場者を募集しています。

◆開催日時／1996年2月25日（日）午後1時30分から

◆場所／青葉公会堂

（東急田園都市線・市ケ尾駅下車、徒歩8分）

◆応募資格／母国語が日本語以外の方

＊小・中学生　　＊一般（高校生以上）

◆応募方法／所定の申込書、スピーチを録音したカセットテープ、原稿を下記に郵送

◆問い合わせ・申し込み／

〒225-70　横浜市青葉区市ケ尾町31－4

☎045－978－2297

阪神大震災チャリティコンサート

阪神大震災による被災留学生の支援をしている外国人学生等救援センターがチャリティコンサートを開催します。これは神戸の外国人学生による出演で、震災の救援に感謝して開催するものです。

◆日時／12月4日（月）午後6時開場、7時開演

◆有楽町朝日ホール（JR有楽町駅下車・徒歩1分、マリオン11階）

◆入場料／前売り2500円、当日3300円（外国人・留学生は無料）

◆問い合わせ／外国人学生救援センター☎03－3363－7223

「足踏みミシン」を探しています

ブルンジ大使館からの要請で「足踏みミシン」を探しています。ブルンジはアフリカ中心部の小さな美しい国でしたが、民族紛争のためにすべてが破壊されてしまいました。そこで、女性の自立をお手伝いするためにも、足踏みミシンをお持ちの方はぜひご協力ください。

◆募集期間／11月末日まで

◆連絡先／IWC国際婦人クラブ

☎／FAX；03－3773－4836

調査報告
『留学生から見た日本の学習環境』

WEF世界教育連盟日本支部全国大会では、青年部のプレゼンテーションとして『留学生から見た日本の学習環境』と題する調査報告を行ないます。青年部ではアジアの留学生とのネットワーク作りをめざしているということですので、興味のある方はご参加ください。

◆日時／11月26日（日）午後4時45分～5時30分

◆場所／江東区森下文化センター

◆問い合わせ・申し込み／

〒171　東京都豊島区目白2－22－3　川村学園気付

世界教育連盟日本支部事務局

SPECIAL THANKS TO ありがとうございました。

◆ＥＭＰＣ在日外国人生活情報誌連合会様／ニュースレターの取材に快く応じていただきました。

◆アルク様／ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ様／凡人社様／国立ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ記念青少年総合センター様／ＫＤＤ様
サマーワークショップの開催にあたってご協力いただきました。

◆（財）国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ基金（ＫＤＤｸﾞﾙｰﾌﾟ企業）様／（財）日本船舶振興会様
日本語ボランティア基礎講習会、育成講習会の開催に助成金でご協力いただきました。

◆ＫＤＤ国際電信電話（株）様／ｻﾎﾟｰﾄﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑによる支援金、ニュースレターの印刷にご協力いただきました。

FROM EDITORS

遅めの夏休みがすんでから、毎日徹夜で仕事。気がついたら、街はもうクリスマスの気配で…。
KYOKO

私の嫌いな冬がやって来ます。風邪を引かないように健康管理をきちんとしましょう。
橋本

走り回っているうちに今年も残りわずか。この大切な時に二週間も留守にしてごめんなさい！
K.H

代々木オリンピックセンターでの日本語育成講習会が始まっています。若い人達のお手伝い感謝しています。
K.K

本年最後のニュースレター
肺の1つのは早いものですわー
(子)

今年もあと1ヶ月!! スタッフ全員元気に活動してより本当に良かった。心も健康と熱意が永久に続きますように。少し早いけれど、心から祈っています。
N.T.

ボラセン通い用のバッグを買った。たくさん入ります。キャリアウーマンになった気分。満弘します。(子)

一年があっという間に過ぎていきそうです。私を除いてスタッフの皆様、お疲れさまでした。(M)

自分の所属するボランティアグループの会報を作ってみて、このニュースレター編集のご苦労がわかりました。前田さん、大滝さん、橋本さんに脱帽!!
(田)

忙しい皆さんといるだけで自分も忙しくつもり！ちゃんと仕事をしないと今年は、特にもかかわるいけない！と本当に反省しています。
Sumiko.O

編集後記

✎ 最近仕事が忙しく、なかなか月曜日の事務局活動に参加できずにいます。関われる部分が少なく、存在感が薄れつつありますが、忘れられないようにしっかり参加していきたいと思っています。（パーランクー）

✎ 秋はなにかとイベントの多い季節。仕事に、ネットワークに、地域のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに、趣味に…と、収拾がつかなくなってきました。いつも後回しになるのは「家庭内のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ」のようです。

✎ 事務局はいつも次から次へと情報や相談が飛び交い、はっきり言ってうるさい。講習会、会計、広報など、それぞれ担当の仕事を落ち着いてしたい時はロビーへ一時避難することもある。お昼時になると持参した弁当や買ってきた弁当を広げてホッと一息。先日は会員のＡさんが情報交換にいらっしゃって、そのままスタッフと一緒に持ってきた弁当を食べて行った。Ｍさんはボラセンの研修会のお昼休みを利用して遊びに来てお茶を飲んで行った。こんな事務局です。遊びにいらっしゃいませんか？
(K)